

稲・大豆作情報 (NO. 8)

1. 水稲作況情報田の生育概況(8月19日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月15日 (平年より1日早い)		今週は低温寡照多雨で経過した。 「夢しずく」は8/15に出穂した。 草丈は「ヒヨクモチ」がやや高い。茎数は「さがびより」「ヒヨクモチ」ともやや多い。葉齢は「さがびより」でやや少ない。葉色は「さがびより」「ヒヨクモチ」ともが平年よりやや濃い。
さがびより 小城市芦刈町	6/21 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	86.5 89.4 (97)	448 432 (104)	13.9 14.6 (-0.7)	37.2 35.4 (+1.8)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/29 19.3株/m ²	本 年 平 年 平年比	76.6 71.8 (107)	653 586 (111)	14.5 14.5 (±0)	42.0 39.4 (+2.6)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

<参考> 佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報(抜粋)(8月20日調査)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく	6/18 19.6株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月17日 (平年より1日早い)		【草丈】 全品種はやや高い。 【茎数】 「ヒノヒカリ」「さがびより」は多く、「ひよくもち」は平年並。 【葉齢】 「ヒノヒカリ」は止葉葉位に達しており、やや少ない。「さがびより」「ヒヨクモチ」はやや遅れている。 【葉色】 すべての品種で濃い。
ヒノヒカリ	6/18 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	94.3 91.9 (103)	501 459 (109)	14.1 (止葉葉位) 14.4 (止葉葉位) (-0.3)	40.0 34.1 (+5.9)	
さがびより	6/21 16.7株/m ²	本 年 平 年 平年比	88.1 85.4 (103)	511 446 (115)	13.7 14.5 (-0.8)	38.8 34.1 (+4.7)	
ヒヨクモチ	6/21 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	78.6 76.2 (103)	568 564 (101)	14.3 14.8 (-0.5)	37.2 34.5 (+2.7)	

2. 水稲管理

**大雨・長雨となっているが、生育は全品種 平年より早く推移している。
生育ステージに応じ、水管理・穂肥・病害虫防除を適正に行う。**

○水管理

- ・全品種、水分ストレスに敏感な時期（幼穂形成始期～穂孕み期～出穂期）となっている。強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿潤（黒乾）状態を保つ。

※長雨時・長雨後も間断灌水が基本であるが、降雨が続いた後は落水期間をやや長めに取り、土壌へ酸素を与え、根の活性維持に努める。

○今週の管理

夢しずく

- ・概ね穂揃い期～乳熟期を迎えている。情報田の出穂期は 8/15 であった。
- ・水管理に重点を置き、根の活力維持と地固めを図る。

ヒノヒカリ

- ・現在、穂孕み期となっている。出穂期は8/23～25の見込み。

さがびより

- ・現在、穂孕み期となっている。出穂期は8/28～30の見込み。

ヒヨクモチ

- ・幼穂形成期を迎えている。
- ・穂肥は下記の診断結果を基に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

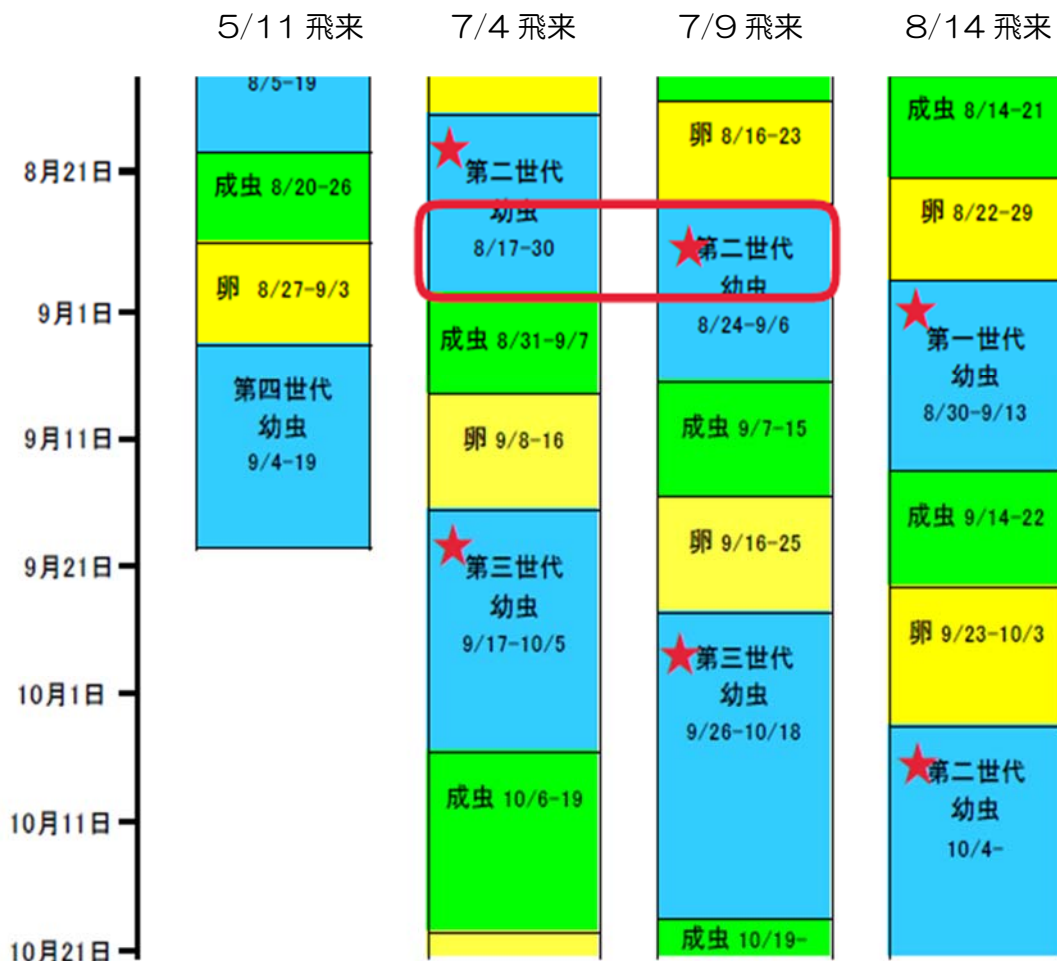
	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月16～17日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月25～27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日～10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※全量元肥施用田（一発くん）においても穂肥Ⅰ～Ⅱの時期にSPADで40を切る場合には、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20 kg/10a）施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

- 今年のトビロウンカは、3 飛来（5月11日、7月4日、7月9日：飛来量は平年並みで、飛来の中では7月9日がやや多い）が確認されていたが、8/11からの長雨で新たな飛来が確認された。飛来量は多い。
- 農業技術防除センターが作成された最新発生予測図は下図のとおり（8/18 発信最新情報）。
- 8/14 飛来の幼虫期は、第一世代：8/30～9/13、第二世代：10/4～となっている。
- 管内のトビロウンカの発生状況は、“小”発生レベルであるが、移植時期や肥培管理によってはより多く発生している可能性もある。引き続き、それぞれで発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- 現在のところ、次回防除適期は、7/4,7/9 両飛来を狙った8/23～29である。
- 防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。
- 8/14 飛来のトビロウンカが被害を及ぼす時期は第二世代幼虫期と思われ、早生種「夢しずく」への影響は小さいと考えられるが、中晩生種については増殖状況によっては臨機防除が必要になってくる場合がある。
- なおこの発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、図の下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にする。

防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半（図中 ★））である。



トビロウンカの最新発生予測図

表1 イネウンカ類のトラップでの捕獲状況(2021年)

月	日	トビイロウンカ			セジロウンカ		
		佐賀市		鎌野市	佐賀市		鎌野市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ
5月	11日	0	0	1	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	1
	16日	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	1	0
	23日	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	1	0	1
	28日	0	0	0	1	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0
	31日	0	0	0	0	0	0
6月	1日	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	1	0	0
	7日	0	0	0	1	1	0
	8日	0	0	0	0	0	1
	9日	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	1	0
	21日	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0

月	日	トビイロウンカ			セジロウンカ		
		佐賀市		鎌野市	佐賀市		鎌野市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ
7月	1日	0	0	0	1	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0
	3日	0	-	0	1	-	0
	4日	1	-	0	0	-	0
	5日	0	-	0	0	-	0
	6日	0	-	0	0	-	1
	7日	0	0	0	1	0	0
	8日	0	0	3	2	3	7
	9日	0	0	2	2	16	143
	10日	0	0	0	4	8	7
	11日	0	0	0	0	0	4
	12日	0	0	3	1	27	24
	13日	0	0	1	0	2	7
	14日	0	0	0	0	1	2
	15日	0	0	0	0	0	1
	16日	0	0	0	0	3	5
	17日	0	0	0	0	1	1
	18日	0	0	0	0	32	3
	19日	0	0	0	0	0	1
	20日	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	1	0
	23日	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	0	0	1	0
	26日	0	0	0	1	1	0
	27日	0	0	0	0	2	0
	28日	0	0	0	2	0	0
	29日	0	0	0	0	4	0
	30日	0	0	0	0	18	0
	31日	0	0	0	1	8	1
8月	1日	0	0	0	0	18	3
	2日	0	0	0	0	4	0
	3日	0	0	0	0	2	1
	4日	0	0	0	0	0	1
	5日	0	0	0	0	0	1
	6日	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	3
	8日	欠測	0	0	欠測	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	2	0	0	1
	12日	0	0	1	0	0	1
	13日	0	0	0	0	0	1
	14日	0	0	87	0	0	165
	15日	0	0	25	1	1	157
	16日			0			9
	17日						
	18日						
	19日						
	20日						

注)佐賀市のネットトラップとライトトラップ(予察灯)は、農業試験研究センターで調査。鎌野市のライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

防除薬剤

薬 剤	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数
エクシード™フロアブル	2000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	1000~2000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内
エミリアフロアブル	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
スタークル液剤10	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

◆斑点米カメムシ類

- ・8月の発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）。
- ・耕種的な防除として、畦畔除草は出穂 10 日前までに行う。

出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂 10 日前までに草刈りを済ませ、時期を逸した場合には除草しない。

- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。

草刈りの時期（目安）	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより・・・8/20頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
ヒヨクモチ・・・・・・・・8/25頃まで	◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

◆いもち病

- ・8月の穂いもち発生量は、並～やや多い予測となっており（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）、山麓部の圃場で発生を確認している。
- ・進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。
- ・葉いもちの発生がみられる圃場は、穂ばらみ期（出穂3～5日前）を中心に防除を実施する。さらに、上位3葉に病斑が確認される場合は、穂揃い期にも薬剤防除を行う。
- ・また移植時苗いもちが確認されたところでは、現在病斑が確認できなくとも、いもち病菌は植物体上に残っているため、田廻りを励行し、初発発見→適期防除を心がける。



▲いもち病（農業技術防除センターより）

◆紋枯病

- ・今年のように生育が良好で、過繁茂状態の圃場では、一気に進展する恐れがあるため、田廻りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 10～20 日前が目安）に防除を行う。



3. 大豆管理

豪雨により完全冠水、畝滞水などが各地で見られ、退水状況で生育が異なっている。
今後できるだけ圃場内に滞水させないように、排水路を再整備し、排水を促す。

○生育状況

管内全域 浸冠水による湿害、土壌の酸素不足などで株が弱っている状況にある。

豪雨の影響が比較的軽い地域では以下の生育となっている。

6月下旬～7月初旬播種	本葉 8～10 葉（6月下旬播種は開花期のものも散見される）
7月上中旬播種	本葉 6～7 葉
7月中旬以降	本葉 3～5 葉

圃場内滞水が長期間となった地域では大半が枯死しているところもみられる。

○中耕・培土

・圃場環境が整ったら速やかに実施し、土壌環境改善に努める。

中耕培土によって土壌への酸素供給、新根発生促進などの効果がある。

ただし6月下旬播種などの開花が始まっている圃場については断根による株の活性低下の恐れがあるため、控える。

播種が7月中旬頃で、浸冠水の影響が軽いものについては

1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度まで。

2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）が隠れるまで 行う。

※2回目実施後は降雨対策に表面排水を促すため、排水口まで畝溝を繋げる。



2回目の培土時期の目安

○追肥：生育回復を促すため、追肥も検討する。

葉面散布による追肥 …… 尿素 1.5%液を 100ℓ/10a 施用。
濃度厳守（濃いと葉焼け症状を助長する）

固形肥料による追肥 …… 窒素成分で2～3kg/10a。ただし施用後培土がないと効果低い。

○雑草対策

・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル、ナブ乳剤等で防除する。

・広葉雑草多い場合は、アタックショット等で防除する。

・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

○病害虫対策

・ハスモンヨトウ、オオタバコガなど鱗翅目幼虫の発生は、降雨の影響で“やや少ない”状況であるが、一部では白変葉も確認される。また浸冠水により今年見られなかった病害（葉焼病・白絹病など）が発生してくる恐れもある。葉の食害跡や病気など新たな病徴に注意しながら圃場巡回を行い、確認後は適正防除に努める。

ハスモンヨトウ・オオタバコガ …… プレバソン・ペガサス

シロイチモジヨトウ …… プレオ・ディアナ

葉焼病 …… 発生確認後はできるだけ圃場内への出入りを控える。バリダシン

白絹病 …… 抜き取り後圃場外持ち出しが基本。バリダシン

令和3年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

